

挑む!

LGBTプライダルプランナー

桜井 秀人さん(37)

多様な思い 寄り添い最良の日



同性同士も戸籍上の性別に違和感がある人も、安心して結婚式を挙げられるよう後押しする団体「グリッター」（大阪市）を4年前に立ち上げた。約20人のメンバーは半数が性的少数者（LGBT）、もう半数が支援者だ。

「新郎」「新婦」ではなく名前で呼ぶ。男性用、女性用以外に誰でも入れるトイレを用意する。異性婚が前提の従来の式次第にこだわらず、2人の希望をじっくり聴き、式場と交渉する。一部自治体が昨年、同性カップルは

大阪府生まれ。立命館大文学部卒業後、日本語教師などをへて現職。毎年10月に大阪市で開かれる「レインボーフェスタ！」実行委員。著書に「セクシュアルマイノリティの教科書」。

夫婦と何ら変わらないとする証明書を出し始めた。でも国が制度を改めなければ、婚姻届は受理されない。「法律で保障されていない関係だからこそ、式を通して絆を深めてほしい」

22歳のとき、バイセクシュアルだと自覚した。愛する人が女性のときも男性のときもある。両親に打ち明けず、本業の取引先で知る人もわずか。

「誰にどこまで話すかは一人ひとりの自由」と考える。性指向や性自認を公にする人は増えているが、おおっぴらにするのが最善とは思わない。結婚式も同じ。大勢に祝ってほしい人もいれば、2人だけで誓いたい人もいる。

これまで手がけた同性カップルの式は2組にとどまる。「『同性婚』という言葉がなくなり、色々な『結婚』が当たり前になることが目標です」

文・花房香草子 写真・伊藤菜々子

記者から

性の多様性を祝う「関西LGBT成人式」を始めた一人。裏方魂で若い世代を支え続けて。